

但シ彈藥中既ニ〇・五百發分ハ乘船地ニ於テ中央ヨリ直接部隊ニ交付ス

又糧食中主食ハ既ニ半月分・自動車燃料ハ部隊整備ヲ充實スルニ止ム

三 自動車ハ待機ノモノヲ除キ分派スルモノトス

四 直接隊通行動ニ關係少キ隊屬河内ハ之ヲ携行セシメサルモノトス

昭和十九年七月十八日

大連指第二千八百九號

指示

大連命令第八十一號ニ基キ左ノ如ク指示ス

一 南方軍司令部・敵軍司令部・防衛總司令部・第五方面軍司令部及支那派遣軍司令部ハ夫々左記ヲ自達トシテ決戦準備ヲ行フノ關係成ルヘク速ニ之ヲ完成スルモノトス

比島方面決戦 (第一號作戰) 八月末

遼寧圍城方面決戦 (第二號作戰) 八月末

本土(北海道)方面決戦 (第三號作戰) 十月末

北東方面決戦 (第四號作戰) 十月末

二 各軍司令部ハ左ニ準備シテ戦上兵力ヲ運用ヲ計畫スルモノトス

141 29

ス

(1) 提議作戦發動ニ即應スル大本營ノ兵力運用計畫ノ大體ヲ

ノ如シ

(2) 南方軍司令部官、陸軍司令部官、防衛司令部官ハ前項ノ兵力

用計畫ニ據ル準備兵力ヲ隨時他方面ニ轉用シ得ル如ク準備スル

モノトス

(3) 陸三提議作戦ニ方リ第三十六軍ハ之ヲ防衛司令部官ノ部下ニ屬人

ヲ豫定ス

三各軍司令部ノ準備スヘキ航空作戦ニ關スル陸海軍中央協定訓令ノ

如シ

四各軍司令部ハ別紙如二具一乃至兵三ノ計畫ニ基キ其部下(一)至(下)

航空部隊ヲ選ニ任用シ得ル如ク準備スルモノトス
五 作戰企圖ノ秘匿ニ關シテハ秘密ナシニ注意ヲ要ス

昭和十九年七月二十四日

31

145

144

考 慮	捷 三 號				捷 二 號	捷 一 號	作戰方面
	捷 四 號	捷 三 號	捷 二 號	捷 一 號			
不 詳 盡 ハ 概 要 ヲ 示 シ 重 時 ノ 状 況 ニ 依 リ 多 少 變 更 ス ル コ ト アリ	第四十七師團	約一師團	(一)一支隊 (歩兵三大隊 基幹) (砲兵一大隊)	(一)一支隊 (歩兵三大隊 基幹) (砲兵一大隊)	一旅團 基幹	一旅團 基幹	轉用準備兵力
	弘前附近	上野附近	蕨附近	鹿兒島附近	海 灣	北 部 比 島	付 属 位 置
	大 本 營	木 本 營	防 衛 司 官		海 灣	南 方 軍	兵 力 準 備 擔 任
	北 海 道 方 面	本 州 東 北 部 又 ハ	小 笠 原 群 島 方 面	南 海 道 島 方 面	南 西 海 峽 方 面	北 部 比 島 又 ハ	使 用 豫 定 方 面

捷 三 號 作 戰 ノ 為 状 況 ニ 即 應 ス ル
兵 力 運 用 計 畫 ノ 大 綱

31

145

144

考 慮	捷 三 號				捷 二 號	捷 一 號	作 戰 方 面
	捷 四 號	捷 三 號	捷 二 號	捷 一 號			
本計畫ハ概要ヲ示シ當時ノ状況ニ依リ多少變更スルコトアリ	第四十七師團	約一師團	(一)一支隊 (歩兵三大隊 基幹) (砲兵一大隊) (一)一支隊 (歩兵三大隊 基幹) (砲兵一大隊)	(一)一支隊 (歩兵三大隊 基幹) (砲兵一大隊)	一旅團基幹	一旅團基幹	捷如作戰ノ高状況ニ即應スル 兵力運用計畫ノ大綱
	弘前附近	上海附近	龍尾島附近	龍尾島附近	海	北部比島	待機位置
	大本營	木本	防備司令官		臺灣軍	南方軍	兵力準備擔任
	北海道方面	本州東北及久ハ	小笠原諸島方面	南西諸島方面	北部比島又ハ 南西諸島方面	臺灣又ハ南西諸島方面	使用豫定方面

大國領第二千百三十二號

指 示

大國令第千八十一號ニ基キ左ノ如ク指示ス

一 南方軍總司令官、防衛總司令官、臺灣軍司令官、第一師團長及船
船司令官ハ別冊「捷號作戰ニ伴フ海上機動反擊準備要綱」ニ基キ

海上機動反擊作戰ヲ準備スルモノトス

二 南方軍總司令官、防衛總司令官、臺灣軍司令官及第一師團長ハ本

要綱ニ基キ九月中旬ヲ目途トシテ攻堅部隊ノ訓練其他ノ作戰準備

ヲ實施スルモノトス

三 機密保持ニ關シテハ嚴密ナル注意ヲ要ス

昭和十九年八月二十日

大陸指第二千百三十二號

指示

大陸命第千八十一號ニ基キ左ノ如ク指示ス

一 南方軍總司令官、防衛總司令官、臺灣軍司令官、第一師團長及船舶司令官ハ別冊「捷號作戰ニ伴フ海上機動反擊準備要綱」ニ基キ

海上機動反擊作戰ヲ準備スルモノトス

二 南方軍總司令官、防衛總司令官、臺灣軍司令官及第一師團長ハ本

要綱ニ基キ九月中旬ヲ日達トシテ攻撃部隊ノ訓練其他ノ作戰準備

ヲ實施スルモノトス

三 機密保持ニ關シテハ嚴密ナル注意ヲ要ス

昭和十九年八月二十日

別冊

海軍作戦ニ伴フ海上機動反撃準備要綱

昭和十九年八月二十日
大本營陸軍部
大本營海軍部

捷號作戰ニ伴フ海上機動反撃準備要綱

第一方針

攻撃部隊、船舶部隊及護衛部隊ノ緊密ナル協同ト周知ナル準備ト
ニ依リ機動ナル反撃作戰ノ戦後ニ投合セシム

第二要領

一 海上機動反撃準備（以下反撃準備ト稱呼ス）トハ反撃準備ノ要
動ニ伴ヒ船艇及護衛艦艇ヲ反撃準備基地ニ集中スルト共ニ攻撃
部隊ヲ乗船シテ出撃準備（海上護衛ヲ含ム）ヲ完了スル迄ヲ
謂フ

二 反撃準備及實施ノ發動ハ大本營之ヲ令ス

三 反撃準備發動ニ伴フ關係指揮官ノ任務及行動左ノ如シ

ノ聯合艦隊司令長官。南方軍總司令官及船舶司令官ハ夫々別紙

ニ基キ船艇及護衛艦艇ヲ速ニ反送準備基壇ニ集中ス

此ノ限聯合艦隊司令長官ハ大本營ノ別ニ指示ス所ニ據リノ船艇

ニ護衛ヲ附シ之ヲ集中セシムルモノトス

之後動員艇又ハ便速船ニ依ル反送準備ヲ命セラレタル攻隊部隊

指揮官ハ別紙ニ基キ隊メ乗船ヲ準備シ船艇ノ集中ニ伴ヒ適時

乗船シ速ニ出發準備ヲ完了ス

右以外ノ攻隊部隊ハ第一師團ヲ除ク一指揮官ハ別命ナク隊メ

準備セシ舟艇ニ依ル海上機動準備ヲ完成シテ待機ス

3 護衛指揮官ハ逐次到着スル陸海軍船艇及護衛艦艇ヲ統一指揮

シ攻隊部隊ヲ乗船セシメテ待機ス

四 反隊準備は定ニ於ケル後衛其ノ他ノ諸準備ニ關シテハ攻撃部隊
 指揮官、聯合艦隊司令長官ノ命ヌル海上護衛指揮官相互協
 ルモノトス

五 船艇集中要領、護衛反擊準備符號等別紙ノ如シ

大連指第二千三百三十號

指 示

大連令第千八十一、第千四十五號ニ基キ左ノ如ク告示ス

南万軍司令官、陸軍司令官、防務司令官、第五方面軍司令官、

官、支那鐵道軍司令官及小笠原六島陸軍ノ防務ニ關シ

「防務守備要領」ニ基テスルモノトス

昭和十九年八月十九日

202

38

大連指針二千四百三十 磁製掛

本別冊は系本には欠けている

品
名
守
備
要
領



昭和十九年八月十九日
大本
寺
監
取
下

大連信第二千百三十號

示

大連命第千八百一。第千四百十五號ニ寄キ左ノ如ク指示ス

南方軍司令官。陸軍省司令官。防衛總司令官。第五方面軍司令官。

官。文部省總務司官。及小笠原陸軍少將。入島。ノ新設ニ關シ其

「島守備要領」ニ添添スルモノトス

昭和十九年八月十九日

202 38

大正指針二千三百三十號附誌

本別冊は原本Fは欠けている

島根県守備要領



昭和十九年八月十九日
大平 啓 監 印

島 守 要 論

第一 平素備へ島ノ要ニ兵力ノ増派ニ依リ堅不島居若クハ島ノ重要地致ヲ防禦シ得ル時ニ於ケル守備要領ヲ示スモノトス

第二、島ノ守備ニ任スル部隊ハ以テ敵ノ進軍ニ抗シツテ長期持久ニ通スル期ク陣地ヲ確保シ敵ノ攻込ヲ挫折スルヲ要ス

決戦ヲ企圖スル島ニ在リテハ敵軍ノ手致ヲ避シ敵軍ノ渡島ヲ阻リ後ヲ見テ攻撃ニ及ビシニ至ラば敵軍ノ侵入ニ此ノ際敵軍ノ進攻ヲ阻リ利用スルコト要ナリ

兵力ノ訓練ニ依リ當初ヨリ水行時・港灣等ノミヲ防禦スル時分ハ守備隊ノ要領ニ依ルモノトス

CPD

第三 主陣地帯ノ内ハ小ムニシテ主陣地帯ヲ遠クシテ外

河地ニ於ケル強固ナル主陣地帯ヲ設ケルノ利ヲ以テ巨城ノ地
ニ或ル損害ノ減少ヲ望ムル等ノ弱陣地帯ヨリ遠置候ルニテ遂定スルヲ
可トス

第四 主陣地帯ハ堅固ナル地帯ニ及候處ノ攻守ニ可シ候ル如ク地形
ヲ利用シ深溝狭谷ニ設キテ主陣地帯ニ強固ナル攻守ヲ遂行シ得ル
ム

第五 主陣地帯ノ前方ニハ左ノ如ク部隊ヲ配置シ直シ忍メテ敵ニ甚大ニ
ル損害ヲ與フルト共ニ敵國砲臺ノ掃蕩ヲ伺取シ以テ敵ヲ攻撃致
スルノ機會ヲ作爲シ又ハ陣地ノ縁地ヲ掃ルニ可ム
ノ水際附近ニ地形ヲ利用シ一部ノ區火罫・火砲ヲ配置シ射撃ノ利

射ニ依リ舟艇進者前後ニ於ケル取ヲ逐射シテ損害ヲ與フ
此ノ際敢先頭上陸部隊ハ水陸兩用戦車・装甲舟艇ナルニ留意ス
ルヲ要ス

2 夜橋頭並橋成隊地取ニ付進ナレ地形ヲ利用シテ一部ノ兵力ヲ
配置シテ取ノ衝鋒隊ノ構成ヲ拘束シ或ハ潜伏遊撃隊點ノ背射自
動火器・潜伏射撃車隊點・各種障礙物等ヲ配置シテ敵ヲ攔阻ス
ルト共ニ多大ノ損害ヲ與フ

此ノ際夜暗等ヲ利用シ逐進部隊ヲ使用シ其ノ成果ヲ擴大スルヲ
可トス

第六 狀況眞ニ止ムル得サルニ至ルモ最後ノ一兵迄抵抗ヲ持續スル
爲復邦陣地ヲ準備ス

41

復邦陣地ハ上陸ニ付自衛ニ付ナルト共ニ其ノテ進行
部隊等ヲ逐進シ保ル地ニ決定ス

第七 陣地ハ通常隊五式ニ爲置スルモノトス
隊前ハ野戦車隊點ヲ主トシテ主陣地帯ニ在リテハ大砲又ハ中
砲トシテ四面ニ射シ逐進シテ敵進ナル戦場ヲ實施シ得ル如ク備
成ス

第八 陣地ハ隊員ナル砲臺等ニ射シ地形ヲ利用シ分散配置スルト共
ニ爲シ得ル限リ堅固ニ設置スルヲ要ス

各種ノ歩兵火器ハ通常足灯架ニ設置スル火網ヲ構成スル如ク配置
シ敵機火力ヲ攔阻スルト共ニ隊員ノ側面ニ射前ニ火網ヲ構成シ直
クヲ有利トス

又砲火力ヲ分散セシメ防禦戰闘ヲ容易ナラシムル爲大規模ニ爲陣地ヲ設クルコト必要ナリ
 此ノ際爲陣地ハ副地ニ於ケルニ於テニ運搬セシメテ主陣地ニ歸スルヲ秘匿スル如ク著意スルヲ可トス
 第九 防禦戰闘ハ火力及迎撃ニ依ル而シテ迎撃ハ火力支援ノ下ニ小規模且短切ニ行フヲ通常トシ不準備状態ノ大迎撃ハ晝夜ヲ圖ハス
 通常甚大ナル損害ヲ招キ防禦全仗ノ指揮ヲ危殆ニ瀕セシメ或ハ終末ニ於ケル攻撃ヲ不可能ナラシムルヲ以テ之ヲ慎シムヲ要ス
 第十 砲ノ砲・擲擧砲ニ遠視射撃下ニ於テハ大部隊ノ同時且暴発セシムルハ通常困難ナルモ或ノ攻撃ヲ受ケナル正面或ハ非重點正面ノ兵力ハ通時之ヲ重直並用ニ以テシテ防禦戰闘ノ準備ニ火力ヲ加

42

給ニ使用メサルヘカラサルヲ以テ之ヲ爲ノ所部ニ分配スルト共ニ交通路ノ設定及後方補給ノ確保ヲ要ス。夜間行動ノ準備等ヲ無シ置クヲ要ス

第十一 攻撃ニ伴フ砲ヲ準備セントスル場合ニ於ケル戰術指導ハ攻撃一校ノ要領ニ準スルモ特ニ攻撃隊ニヨリ各種威力既中砲兵力ヲ不意詭計的ニ染中シ攻撃發起ヲ容易ナラシムルヲ要ス

第十二 沿岸防禦ニ於ケル守備部隊ニ在リテハ第二ノ第一項、第三、第四、第五、第七、第八、第九、第十ヲ準用スルモノトス

(備考)

一 島嶼守備隊戰術教令案ノ大綱ハ本指示ニ依リ修正セラレハキモノトス

大體指第二千百五十四號

指 示

大體命第千百二十一號ニ奉キ左ノ如ク指示ス

第三十二軍司令官ハ東部軍區臨飛行隊ヲ以テ主トシテ海上護衛總

司令官ノ行フ南西諸島附近ノ海上交通保護作戦ニ協力スルモノト

ス

昭和十九年九月六日

二沿岸防線全般ニ關スル事項ハ別ニ示ス

大政指第二千百七十三號

指 示

大政令第千百三十八號ニ依テ左ノ如ク指示ス

勸員管理官（船舶司令官ヲ除ク）ハ海上警備基地諸隊ヲシテ本州

九州港灣出發迄ノ間其教育訓練、宿營給養ニ關シ船舶司令官ノ區

區ヲ受ケシムルモノトス

昭和十九年九月二十二日

大陸指第二千七百七十九號

指 示

大陸命第千八十一號及第千三百三十六號ニ基キ左ノ如ク指示ス

第一師團ノ輕用ニ件ヒ大陸指第二千三百三十一號指示別冊「捷號

作戰ニ件ヲ海上機動反擊準備要綱」別紙中反擊區分「イ號」及

「ハ號」ヲ削除ス

昭和十九年九月二十二日

大陸指第二千二百七號

指 示

大詔命第千八百一號ニ基キ左ノ如ク指示ス

一、大陸指第二千八百十九號第二項(四)及大陸指第二千三百三十二號ニ按

ル南方軍總司令官ノ反響作戰準備ノ件ヲ排除ス

二、大陸指第二千三百三十二號別冊「陸軍作戰ニ伴フ海上機動反響準備要綱」別紙「反響作戰準備要綱」中「ハ」號其ノ一ノ集合地

（反響準備基地）淡水ヲ基隆ニ改メ

昭和十九年十月六日

大體指第二千二百二十三號

指 示

大體命第千二百二十一號及第千二百五十二號ニ基キ左ノ如ク指示ス

第十方面軍司令官ハ東部軍直協飛行隊ヲシテ依然第三十二軍

司令官ノ指揮下ニ在ラシムルモノトス

昭和十九年十月十四日

大陸指第二千三百七十九號

指 示

大陸命第千二百四十二號ニ基キ左ノ如ク指示ス

一、臺灣及南西諸島方面作戰ニ關スル陸海軍中央協定別冊ノ如シ

航空作戰ニ關スル陸海軍協力要領ニ關シテハ別ニ指示ス

二、第十方面軍司令官ハ情報ノ速達ニ關シ密ニ防衛總司令官、支那

派遣軍總司令官及關係海軍指揮官ト協力スルモノトス

三、第十方面軍司令官ハ所屬ニ屬シ支那派遣軍及南方軍ノ兵站ヲ援

助ス

四、第十方面軍司令官ハ其ノ作戰地域内ニ在ル隸下、指揮下以外ノ
部隊ノ警戒、整備、補給、宿營、給養等ヲ擔任スルモノトシ細

49

103

部ニ關シテハ關係軍司令官ト協議スルモノトス

昭和二十年二月三日

大陸指第二千三百七十九號別冊

臺灣及南西諸島方面
作戰ニ關スル陸海軍中央協定

昭和二十年二月三日
大本營陸軍部
大本營海軍部

臺灣及南西諸島方面
及作戰ニ關スル陸海軍中央協定

一、臺灣及南西諸島方面ニ於ケル陸上防衛ハ陸軍、海上防衛ハ海軍
擔任スルヲ本則トス

二、第十方面軍司令官ハ陸上作戰ニ關シ臺灣及南西諸島方面所在海
軍部隊中所與ノ兵力ヲ指揮ス

右兵力ニ關シテハ第十方面軍司令官、佐世保鎮守府司令長官、
高雄警備府司令長官協定ス

大隈指第二千三百八十二號

指 示

大隈命第千二百十三號及第千二百四十七號ニ基キ左ノ如ク指示ス
 一、第十方面軍司令官、支那派遣軍總司令官、防衛總司令官、南方
 軍總司令官及關東軍總司令官ハ別紙第一、第二ニ準據シテ航空作
 戦ノ實施スルモノトス
 二、南西諸島方面ニ對シ防衛總司令官ノ行フ航空作戰ハ概テ沖縄本
 島（含ム）以北ノ地域トス

昭和二十年二月六日